

平成25年12月20日

各 位

会社名 カルナバイオサイエンス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 吉野 公一郎
 (コード番号：4572)
 問合せ先 取締役経営管理本部長 相川 法男
 (TEL：078-302-7075)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成25年12月期通期（平成25年1月1日～平成25年12月31日）の連結業績予想を、下記の通り修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正内容

平成25年12月期通期連結業績予想の修正（平成25年1月1日～平成25年12月31日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	1,155	4	28	23	316.20円
今回修正予想 (B)	760	△306	△286	△290	△3,768.37円
増減額 (B-A)	△395	△311	△314	△313	
増減率 (%)	△34.2	—	—	—	
(参考) 前期 (平成24年12月期) 通期実績	510	△457	△442	△449	△7,328.33円

(参考) 個別業績予想の修正

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回公表予想 (A)	1,060	25	19	271.15円
今回修正予想 (B)	689	△255	△260	△3,374.29円
増減額 (B-A)	△370	△281	△280	
増減率 (%)	△34.9	—	—	

2. 業績予想修正の理由

平成25年2月8日公表の平成25年12月期通期の連結業績予想において、創薬支援事業の売上高を755百万円、創薬事業の売上高を400百万円、全社で1,155百万円を計画しておりましたが、創薬支援事業の売上高予想を760百万円、創薬事業は計上なし、全社で760百万円に修正いたします。

セグメント別に売上高の状況を示すと、次のとおりであります。まず、創薬支援事業においては、ほぼ前回公表予想比4百万円増の売上高を計上するとともに、営業利益においては、特にプロファイリング・スクリーニングサービスの売上高が伸長したことによる原価低減効果が功を奏したことから、前回公表予想値を57百万円上回る244百万円となる見込みであります。地域別では、まず国内市場において、前回公表予想を38百万円下回るものの、前連結会計年度比では114百万円増の422百万円といたしました。前期比較による売上増加の主な要因は、平成24年10月4日に締結した小野薬品工業株式会社との業務資本提携契約に基づく大規模キナーゼスクリーニングサービスの提供が順調に推移したこと等によるものであります。つぎに北米地域については、前回公表予想とほぼ同額、前連結会計年度

比83百万円増の204百万円といたしました。北米市場での課題であった顧客ネットワークの再構築が順調に推移し、バイオベンチャーを中心とした顧客からの売上増、特にプロファイリング・スクリーニングサービスが大きく伸長したことが寄与するとともに、対米ドル為替相場での円安も寄与し、大幅に上回る見込みであります。さらに欧州につきましては、前回公表予想を47百万円上回り、前連結会計年度比52百万円増の119百万円といたしました。キナーゼタンパク質製品の販売およびセルベースアッセイサービスの提供を中心に売上が増加し、北米地域と同様に円安の為替相場の影響等もあり、対前期比では大幅に上回るとともに、対前回予想比でも大幅に上回る見込みであります。最後にその他地域については、前回公表予想を3百万円下回る14百万円といたしました。

つぎに、創薬事業については、当期における製薬企業等への当社研究テーマの導出（ライセンスアウト）による一時金収入の計上を目標に設定し、複数の研究テーマにおいてMTA（マテリアル・トランスファー・アグリーメント＝化合物提供契約）に基づき、複数の製薬企業等と導出交渉を行っておりますが、交渉先から提案のあった契約一時金等の条件では契約締結を見送り、引き続き現在導出交渉中の製薬企業等との交渉を進め、早期の導出契約の締結に注力してまいります。これにより、創薬事業における前回公表予想の売上高を計上なしに修正することといたしました。

以上の結果、平成25年12月期通期の連結業績予想について、売上高を前回公表予想に比べ395百万円下回る760百万円（前連結会計年度比249百万円増）に修正いたします。損益面については、創薬支援事業における収益改善が寄与したものの、創薬事業における売上高の計上がなかったこと、さらに平成25年10月1日付で簡易株式交換により完全子会社化した株式会社ProbeXに係るのれん償却費および研究開発費を中心とする販管費負担の発生等により、営業損失は306百万円、経常損失は286百万円、当期純損失は290百万円となる見込みであります。今後とも諸経費の節減に最大限努め販管費を圧縮していく方針を堅持してまいります。

なお、個別業績予想の修正につきましても、連結業績予想の修正と同様の理由によるものであります。

(注) 本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び本資料の発表日現在において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上